

令和7年4月13日（日）《午前》 第13期Bコース研修生 「日本の近現代史③」

4月13日（日）に「グローバル化と日本～戦後の復興から現在まで～」及び「日本の近現代史を学んで～学びからのさらなる展望～」について学びました。

研修生は事前学習として、この時代の事前研修用動画及びNHK高校講座日本史の、「占領と国内改革」、「国際社会への復帰と高度経済成長」、「激変する世界と日本」を視聴し、それを踏まえて事前課題1、2を複数の資料で調べ自分の考えをまとめてきました。当日は4人毎の小グループに分かれ、調べてきた事前課題を発表し合い、協議しました。また、小グループでの協議内容を全体の場で発表・協議しました。

事前課題1は「第二次世界大戦後、日本は高度経済成長期を迎える経済大国となり、様々な課題はあるものの国内総生産（GDP）は世界第3位（2021年）である。『日本は、なぜこのような経済成長を遂げることができ、また、それがどのような影響を社会に及ぼしてきたのか。』を主テーマに、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から、これに関する追究する課題（複数も可）を設定し、将来を展望して追究する。」です。

研修生は、経済成長のもたらした地域格差や一次産業の衰退、高度経済成長期のインフラ整備と今日の老朽化への対応などをまとめました。



事前課題2は「『日本国憲法の下、我が国は冷戦下及び冷戦後の国際社会において平和主義を掲げ、どのように世界の諸課題の解決に取り組んできたのか。』を主テーマに発表・協議をしました。研修生は日本国憲法と自衛隊の在り方、近隣諸国との領土問題の解決、発展途上国への援助の在り方などに関わる課題を設定していました。

自分で設定した課題だけによく調べてあり、自身の考えもはつきりと述べていました。また、今日的な課題について熱心に協議を深めていました。

全3回の講座を受講し終えた感想には、「同じ歴史的事象に対しても人によって見方や考え方方が異なることに驚いた。」、「自分で課題を設定し調べ考察する学習によって歴史に対する苦手意識がなくなった。」などがありました。

令和7年4月13日（日）《午後》 第13期Bコース研修生 「ゼミナール③」

第13期Bコース研修生は、4月13日（日）に第3回ゼミナール研究を行いました。今回は、第2回ゼミナール研究で行ったゼミナール研究アウトラインの協議内容を踏まえて、各自が再検討した研究アウトラインをグループで発表して協議しました。その協議の前には、事前課題として、視聴を行ったNHK for School “アクティブ10 プロのプロセス” 第10回「分析のしかた」の動画についての振り返りを行いました。

ゼミナール研究は次のように進めました。(1) 再検討した「研究アウトライン」及び「調査活動計画」に沿って一人ずつ発表する。(2) 発表に対してグループの成員が＜問題点・疑問点＞、＜優れた点等＞を指摘する。(3) 発表者は指摘を受けた問題点や疑問点について答え、グループ全員で改善点等について意見交換する。この発表と協議を合わせて一人16分ずつ行いました。今回は、研究テーマが焦点化され明確にされているものが多く、研究仮説も磨かれていました。そのため、研究仮説を実証するアンケートやインタビューの内容なども発表、協議でき、内容が充実したものになりました。今後のゼミナール研究の深まりにつながりました。



研修の最後に記入した「ゼミナール研究振り返りシート」には、今後の取組について、見通しを具体的に明確にしていきたいとの思いが多くの研修生から見ることができました。